

組織の概要 (企業用)

会社名 (株)双成化建

所在地	〒 400-0043 山梨県甲府市国母三丁目12番34号 TEL:055-228-6095 FAX:055-226-0195 E-mail:info@souseikaken.co.jp		
ホームページ	http://www.souseikaken.co.jp/		
設立年月	昭和63年5月		
代表者	渡邊 誠	担当者	渡邊 誠
資本金	1,000万円	従業員数	12名
沿革	昭和63年5月 設立 山梨県知事建設業認可 平成10年12月28日 炭を用いた顆粒状無機吸着体製造の認定 平成11年6月18日 特殊肥料生産者届出・受理(山梨県)		
事業概要	昭和63年5月設立以来、建設業のうち建築にかかる大工工事、タイル工事、塗装工事、熱絶縁工事、左官、屋根工事等において、防水工事を主たる事業としてきている。 現在年間売上高1億8千万円。		
環境に関する活動実績	主たる防水工事を中心とした事業を行いながら、環境への対策について強く危惧を抱き、木炭の利用による環境浄化に関心を注いでいた折、吸着材の研究者と知り合い、ダンボールの廃品回収を家業としていた祖父の代から付き合いのあった、静岡県富士市内の製紙会社から残パルプを回収し、それを炭化する技術を開発した。 平成10年12月28日 山梨県知事から「創造的事業活動の認定」を受けた。 平成11年5月 顆粒状無機吸着体研究プラント完成。 現在研究続行中		

売上高(16年度) 1億8千万円

提言

政策のテーマ ストーブ燃料の灯油から粉炭へのエネルギー転換による地球温暖化防止

政策の分野

- 循環型社会の構築
- 地球温暖化防止

政策の手段

予算・資金措置

施設整備

組織活動

団体名：(株)双成化建

担当者名：渡邊 誠

政策の目的

循環型社会の構築と地球温暖化防止のために、木質バイオマスの活用は炭素循環に従うといった面で有効である。木質バイオマスとして炭を粉末化した「粉炭」を取り上げ、暖房設備であるストーブの燃料を石油(灯油)から粉炭へのエネルギー転換を図ることで、家庭・事業所等における、木質バイオマスの普及を行う。

背景および現状の問題点

日本の3分の2は森林であり、その4割は人工林といわれているが、コストの問題などからその間伐はほとんど行われていない。間伐しなければ森林機能は弱まるだけでなく、自然災害にもつながりかねない。木質バイオマスは燃焼してもNO_xやSO_xなどの大気汚染物質の排出が化石燃料に比べて少なく、カーボンニュートラルなエネルギー源であるといえる。そこで、近年日本に豊富に存在する木質バイオマス利用に注目が高まっており、本提言ではその1つである間伐材の利用に注目した。

東京農工大の研究グループが、木質バイオマスによる「粉炭ストーブ」を発表している。このストーブは炭の粉末を燃焼させて、灯油に代わるエネルギー源とするものである。その燃料となる「粉炭」の原材料とその加工、供給システムはこれからの課題となっている。

粉炭の原材料として間伐材の利用することは、環境保全や間伐剤の利用の面で、有効と考えられる。

政策の概要

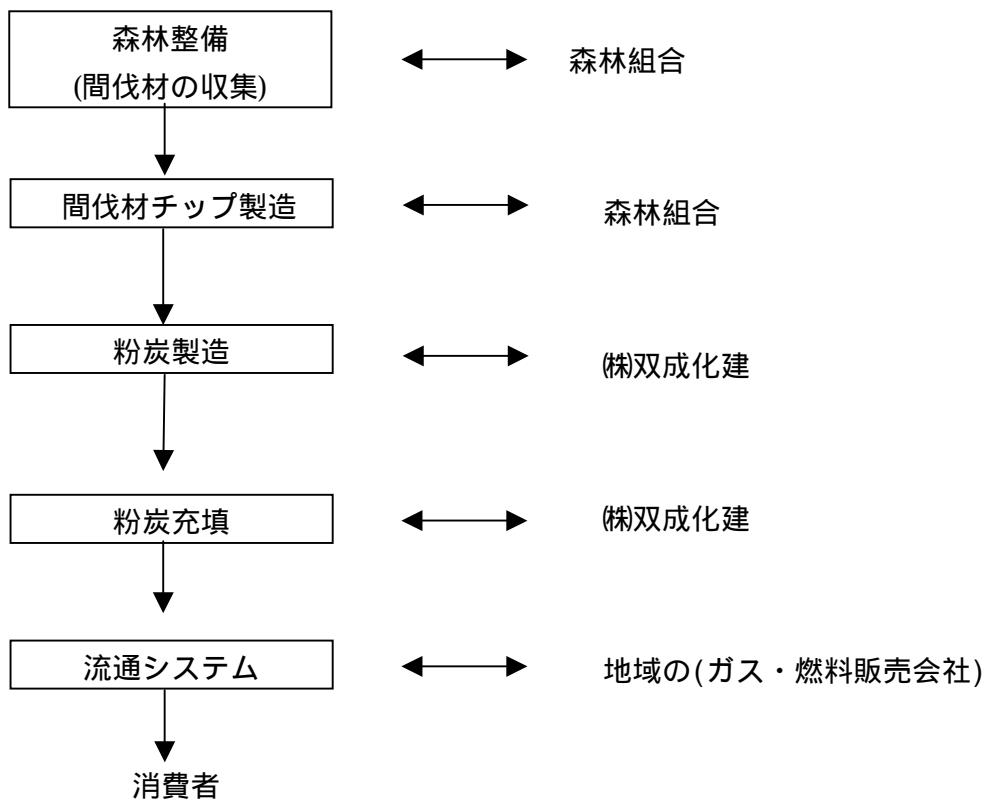
当社での製造プラントにより、現在行っている「粉炭」の製造の原材料は、製紙会社の残パルプを用いて製造。この材料供給源が限られている。そこで、森林間伐材を利用して粉末を製造することで、全国での「粉炭」の製造供給が可能となる。

間伐材の用途が行き詰まっており、森林でのCO₂吸収に対する森林整備資金が不足している。これらの問題の解決策として、地域での「粉炭」製造は、有効であると考えられる。全国のモデル地区における粉炭製造プラントの建設、及び流通システムを構築する。

費用1 プラント当たりの概算

間伐材チップ製造施設建設	2億円 (1施設)
粉炭製造プラント	2億円
粉炭充填施設	1億円
流通システム構築	1億円 (山梨県内全域)
計	6億円

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）



政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

森林組合	間伐材の収集、チップ製造
(株)双成化建	粉炭充填、施設建設
ガス、燃料等の配達を業とする地域毎の業者	流通システムの構築

政策の実施により期待される効果

環境保全面

粉炭ストーブの普及及び拡大につながり、木質バイオマスが利用されることで、カーボンニュートラル、大気汚染物質の放出の抑制がなされ、地球温暖化防止に寄与できる。また、残パルプの処理による環境負荷の低減化を図る有効な手段となる。

経済面

全国の森林資源の活用が行われ、林業従事者、材料加工に携わる森林組合の雇用や、環境ビジネス化の促進が行われる。

その他・特記事項

粉炭技術は完成間近であり、当社のプラントの実用化試算では、粉炭の製造コストは灯油の1／3以下となっている。